

ソーシャル・データサイエンス (SDS) への期待

～「環境」の視点から～

2022. 12. 16

正田 寛

パナソニック株式会社顧問
前環境省地球環境審議官

環境行政について

○環境省

1971年 環境庁設置
公害対策、自然保護



2001年 環境省設置
気候変動、廃棄物行政
さらに、東日本大震災からの復興、原子力規制

○50年の間に、

政策の手法や担い手の多様化

規制 ⇒ 経済的手法、情報発信、教育、直轄事業 等

行政（国・地方）⇒ 企業、金融、各種団体、国民 等

地域課題から地球規模課題へ

気候変動、生物多様性、プラスチック

環境行政とデータは密接不可分

○規制・・何を、どれだけ

ex 大気汚染防止法（抄）

第三条 ばい煙に係る排出基準は、ばい煙発生施設において発生するばい煙について、環境省令で定める。（以下略）

水質汚濁防止法（抄）

第三条 排水基準は、排出水の汚染状態（熱によるものを含む。以下同じ。）について、環境省令で定める。（以下略）

○多様化とともに

ex 「環境と経済の好循環」・・・パリ協定、SDGs

外部不経済の典型例 ⇒ 市場の力を活用 コストから投資へ

長期的な持続可能性を重視する流れへ ~ ESG投資、積極的情報開示

CSRから経営課題の柱へ cf Panasonic 「GREEN IMPACT」

○いくつかのトピック

- ・ エコチル
- ・ 地域脱炭素、GOSAT
- ・ EBPM
- ・ オープンデータ化

S D S への期待

○データから情報へ

データ自体は無機質 ∴ 共通言語
⇒ いかに有用な「情報」にしていくか
大量なデータの選択・分析・解釈
cf. ファクトベースの議論

○社会課題の解決に向けて ⇒ 学際的・実践的な取り組み

どのように課題を設定するか
地域の特性も踏まえて
○○×○○×・・・ 二兎も三兎も追うように
創造性＝組み合わせ